



仕上げた作品の数々で開催した個展

木の温もりを感じて いくつも広がる創造の世界

但東地域には、木版や陶器などに絵を描くトールペイントでさまざまな作品を制作している作家がいます。教室を定期的を開いたり、時には、制作した作品を一堂に集めて個展を開いたり、さまざまな方法で大勢の人々に魅力を伝えていきます。今回は、その女性を紹介します。

中谷邦子 さん(65歳)但東町相田在住



自然に囲まれた生活を夢みて5年前夫婦で神戸から但東にイターンした中谷さん。ガーデニングにも取り組み、手入れのいき届いた花や植物が自宅を囲んでいる。

中谷邦子さん。
中谷さんが、トールペイントを始めたのは、約10年前。友人に誘われたのがきっかけで、すぐに独特の魅力に引き込まれていきました。もともと、花や植物を育てることが趣味だったこともあり、プランターなどの絵付きの栽培用具を見て、「自分の手で作ってみたくなった」と当時を振り返ります。

きっかけは友人の誘いから

「絵を描いているときがとても楽しいんです。どう仕上げていこうかと考えるだけでもワクワクします」と満面の笑みを浮かべながらそう話すのは、但東地域でトールペイントの作品づくりに取り組む中谷邦子さん。

返ります。

仕上げた作品の数々で個展を開催

トールペイントは、もともとヨーロッパの家具などを装飾する伝統的絵付けを源としていました。その後、この技術がアメリカに渡り、誰にでも親しみやすい手芸品として発展してきました。

現在では、トールペイントといえば、木版や陶器、金属、ガラス、布などに、アクリル絵の具でいろいろなものを描いて作品を作る手芸品のことをいいます。
中谷さんは、電動工具などを使って手づくりした木工品を使うなど、作品づくりにこだわりの持っています。

自宅の至る所には、小鳥の絵を描いた幅約1・2メートルのベンチや、パンジーやバラを色鮮やかに描いた机などが並び、生活の一部として溶け込んでいます。また、庭先は、手入れの行き届いた数々の花や植物とトールペイントの作品が調和されて、とても落ち着いた雰囲気です。豊岡オープンガーデンショーにも参加し、手入れした庭を多くの人々に見に来てもらっています。

ペイントした作品を大勢の人に見てもらおうと、但馬の各地で個展を開いたこともあります。訪れた人々からは「素晴らしい」「見ただけで心が和みます」と声をかけられ、中谷さんにとって今後の作品づくりの大きな励みにもつながっています。

皆さんも一緒に体験してみませんか

一方、中谷さんは、トールペイントの技術を生かして但馬各地で教室を開催し、講師を務めています。
教室では、初心者でも続けて行きやすい内容のものから上級者にも楽しんでもらえるような内容で、市内外から多

くの方が参加しています。これまで、絵や手芸品とは無縁に思っていた年配の方にも親しみやすいものとなっていています。

一番伝えたいのは「木の温もり」

中谷さんは「作品には作る楽しさと見る楽しさがあります。思い描いたものを自分で作り、出来上がったものを生活の中に取り入れて使う。木の温もりを感じながら楽しいものに囲まれて生活するところが和みます」と声を弾ませ、「私の教室に来ていただいた生徒の中から指導者が出てきて、もっとたくさんの人にトールペイントの魅力を広められたらうれしいです」と頭の中に広がるキャンパスに大きな夢を描いていました。



玄関先でも趣味のガーデニングとトールペイントをつまみ調和させ、落ち着いた雰囲気の上装に

学校探検 24

恭敬 剛健 共同

竹野小学校（竹野）

案内者 稲葉祐司くん



竹野小学校は、山陰海岸の竹野浜からすぐ近くの住宅街に位置しています。海・山・川の大自然に恵まれた環境の中、17地区から197人の児童が通っています。

竹野小学校に通う稲葉祐司くん（6年）は、児童会長を務めています。所属している野球部では、ピッチャーと3番バッターを担当。将来はプロ野球選手になって活躍したいという稲葉くんは、竹野小学校を紹介してもらいました。



児童たちがのびのびと学習する竹野小学校

僕の好きな学校行事は、9月に行う運動会です。

中でも一番好きな種目は、紅白対抗リレーです。1年生から6年生まで、学年ごとに男女4人ずつ選り出し、赤白各2チームずつ計4チーム作ります。このチームにより一周120メートルのトラックで競走します。

僕は、走ることが大好きなので、ドキドキワクワクして楽しかったです。

次に好きな種目は、組体操です。6年生になった今年は、三段タワーに挑戦します。みんなで力を合わせて成功させたいと思っています。

そして、運動会の最後に盆踊りをします。毎年、地域の方々に音頭をとってもらいながら、一緒に踊っています。

また、5月に学校近くの畑で、サツマイモの苗挿し、10月に収穫祭を行います。収穫したいものは焼きいもにし、い

もが焼けるまでの時間を利用して、児童会で考えたゲームをみんなでします。昨年は、サツマイモをバトンにして縦割りそうじ班対抗リレーをしました。体を動かした後に食べた焼きいもは、とてもおいしかったです。

特徴のある行事としては、5月のこいのぼり相撲大会があります。

幼稚園児から6年生までが参加し、グラウンドに作った学年ごとの土俵で予選を行い、本土表で決勝戦を行います。僕は今年4位だったので、とても悔しかったです。



子どもたちが真剣な表情で取り組むこいのぼり相撲大会

竹野小学校は、豊かな自然を活かして、体を動かしながら楽しい活動の時間をたくさん取っています。

笑顔の輪

自然の中でたくましく

『日本ボーイスカウト兵庫連盟日高第1団』（日高）

日高地域の「日本ボーイスカウト兵庫連盟日高第1団」は、昭和35年に発足しました。

メンバーは、主に日高地域の小学1年から高校3年生までの36人が所属しています。

主な活動は、ハイキングやキャンプなどの屋外活動に加え、美化活動や地域イベントの奉仕活動などです。これらの活動を通じて、メンバー一人ひとりが成長しながら、相互の協調性と団結力を身に付けていきます。

同団指導者の村田一紀さん（日高町山本）は、「小学生のころから入隊している私も、グループ活動を通じて大きく成長することができました。今では、子どもたちの成長していく姿を見ることがとても楽しいです」と笑顔で話します。

また、4年に一度開催される「第21回世界スカウトジャンボリー大会」が、7月27日から8月8日までイギリスで開催され、同団から2人が参加します。今年は、ボーイスカウトが誕生してから100

周年にあたるため、盛大に行われる予定です。

参加する山内敬司さん（但馬農業高校3年）は、世界中のスカウトと仲間の輪を広げ、外国の文化を学んでみたい。八木美幸さん（豊岡高校3年）は、「外国のスカウトと会話をすることにより、思想や風習など、日本との違いを学びたい」と、それぞれ意気込みを語っていました。

期間中は、キャンプやホームステイしながら、現地の人や各国代表のグループと交流を深め、仲間の輪を広げます。皆さんの応援をお願いします。



笑顔と元気が自慢のメンバー